

国民健康保険における世帯の負担感に影響を及ぼす要因

お茶の水女子大家政 ○横田明子 福田協子

湘北短期大生活科学 (非常勤) 鬼頭由美子

目的; 国民医療費の増大に伴い、世帯の負担が今後一層大きくなることが予測されている。「医療保険における世帯の給付と負担」の実態を明らかにすることを目的として、お茶の水女子大学家庭経済学研究会が行ってきた一連の調査研究により、国保加入世帯で医療費負担の増大が家庭経済を圧迫している状況が指摘された。

本研究では、これら国保加入世帯の保険税や窓口での自己負担に対する負担感、および負担感に影響を及ぼす要因を解明し、世帯の側にとって医療保険制度のあり方について考察する。

方法; 昭和53年岩手県一戸町、54年長崎県西彼町、55年静岡県掛川市において、すべての世帯員が国民健康保険に加入している世帯を対象に実施した「健康と医療についての意識調査」により、世帯の負担感に影響を及ぼす要因の分析を行なう。

集計サンプル数は、313、209、389世帯である。

結果; 世帯の負担感には、その負担額のみならず、世帯員の健康状況、健康や医療に対する関心・満足度、乳幼児・高齢者を世帯に含むか否か、あるいは、世帯の経済状態、および地域の医療供給条件により影響を受ける。

また、保険税の賦課方式、受診機会格差が問題点として明らかにされた。